

最初で最後の中学校部活動

飯塚市立飯塚第一中学校3年（福岡県）

岩見 穂乃香

茶道部に入部して3年目。新型コロナウイルスが5類になったとはいえ、まだ感染対策をした活動は続いている。お茶会や校外活動を映像でしか知らない私たち3年生。自分が点てたお茶を人にのんでもらうこともかなわず、自分の中での茶道だった。昨年度は茶道部に新しく入部する生徒はいなかった。今年10月の文化祭で3年生は部活動を引退する。新1年生が入部しなければ、茶道部は廃部の危機だ。飯塚第一中茶道部は創部して5年目。茶道部を立ち上げた当時の先輩たちの様子やその思いは、今でも茶道部で語り継がれている。だからこそ、人前に出ることが苦手な私だが部長に立候補した。自分を変えたいと思ったし、茶道部の廃部の危機を何とかしなければと思った。茶道が好きな他の9人の仲間も、茶道部を残したいという同じ思いで一緒に取り組んでくれている。

4月の部活動紹介では、「和敬清寂」の心を部の目標にして活動していることや茶道のよさを、手作りの茶道部プラカードを掲げて1年生に伝えた。仮入部に来た1年生に、これまでの茶道部活動を話す。活動内容は薄いものだったかもしれないが、茶道への気持ちは熱く話せたと思う。新しく1年生10人の入部があり、とてもうれしかった。私たちが引退するまでに、その先、1年生だけでも頑張っていけるように、私たちはどんなことを伝えていけるだろうか。

6月、アメリカのサニーバールからの留学生が茶道体験に来た。コロナ禍で3年間交流が途絶えていたので、私たちは初めてお客様にお茶を点てた。緊張して頭が真白になり、畳の歩き方やお点前を間違えそうになったり、抹茶とお湯の量がこれでよいのか心配になったりした。だが、私が点てた抹茶を留学生たちは喜んで飲んでくれた。笑顔で「ありがとう、おいしかった」と英語で話してくれた。相手にお茶を点てたのは、これが最初で、中学校の部活動では最後になるかもしれない。

7月、初めて、校外で茶道部活動をした。近隣の中学校・高校・看護学校の茶道部が集まって茶道について学ぶ「学校茶道研修会」だ。コロナ前は毎年お茶会を開いてお点前を学校間で研修し合っていたと聞くと、今年は地元の「山田饅頭本舗」の職人さんから和菓子の練りきりの作り方を学んだ。いざ、作ってみると赤と緑の比があわなかったり中の餡をうまく包み込めなかったりして難しかった。黒ゴマをつけて完成したそれは、不格好だがいとおしい「スイカ」だ。職人さんは、次々と、鶯・水鳥・夏空・コスモス・型抜きの紅葉など、芸術のような練りきりを作って見せてくださった。味覚だけでなく季節を美しく表した色や形に心惹かれた。練りきりの下準備に大変な時間と手間がかかっていることも知った。一つの菓子が目の前に届くまでに、原料を作る人、届ける人、和菓子職人、茶道の先生方などたくさんの人が関わっている。感謝の気持ちがとても大きくなった。

私が住む飯塚市は、砂糖が運ばれた「シュガーロード」の沿線にあり菓子店が多いが、残念なことに和菓子専門店は少なくなってきた。茶道とともに創作されてきた和菓子文化も続いて

ほしい。和菓子を上手に作るコツを尋ねると、具体的な分量の比率や作り方とともに、「大切な人に和菓子を出すときに、喜んでほしい、美味しく食べてほしいと思うでしょう。相手のことを考えながら量や甘さなども調節して丁寧に作ることです」と教えてくださった。茶道といっしょだ。相手のことを思いやり行動することは、全てに共通することなのだと思った。

この研修会で、茶道の先生方が点ててくださった薄茶を初めて飲んだ。きめ細やかな泡立ちで優しいおいしい味だった。このような抹茶を点てられるように少しでも近づけるように、中学校部活動を最後まで頑張りたい。